

堤防決壊時の緊急対策シミュレーション意見交換会を実施

近年、ゲリラ豪雨など短時間に集中した豪雨による洪水が、全国各地で頻発しています。河川管理者は、洪水を安全に流せるよう堤防等の施設を整備していますが、時として施設の規模を超えた大雨が降り洪水被害に至る場合があります。

このような事態に備え、河川管理者は堤防が決壊した状況を想定し、迅速に堤防を復旧するための方法を検討する「堤防決壊時の緊急対策シミュレーション」を災害対応訓練として毎年実施しています。

岩見沢河川事務所で行ったシミュレーションでは、軟弱地盤が分布するという管内特性を踏まえ、河川付近の道路が狭く、施工が困難な状況を想定して応急復旧工法を検討しました。また、現場施工を担当する災害協定業者の方々や、災害対応の知識、経験が豊富な防災エキスパートを交えた意見交換会を開き、より現場に近い目線での意見をもらいながら、対策方法について検討を行いました。

災害時に迅速に対応するためにも、災害を想定した事前の訓練を通じ、職員の技術力の向上を図るとともに、災害協定業者など関係者との連携を深め備えることが必要です。

洪水により堤防が破堤すると、大量の濁水が背後地の農地等に流入します。



堤防決壊シミュレーション意見交換会

S56. 8月の洪水時の堤防決壊状況
(産化美唄川)

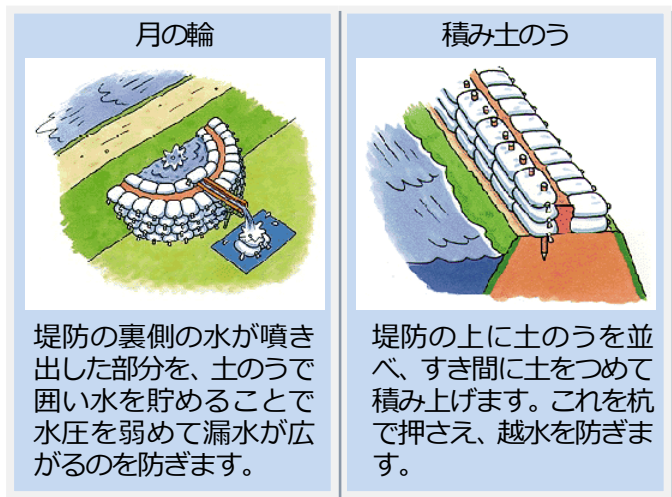
堤防決壊させないためには・・・？

洪水時に堤防が決壊すると、あふれた川の水により背後地の農地等に大きな被害が発生します。洪水被害の発生を未然に防ぐためには、漏水、越水などの堤防決壊に繋がる初期の異常を早期に発見し、適切な対策を講じる必要があります。

河川事務所では豪雨等により河川の水位が一定以上に上昇した場合、職員が河川パトロールを行い、堤防に異常がないか確認してします。異常が確認された場合は、状況に応じて右図のような水防工法で対策し、堤防の損傷が拡大しないよう対応します。

水防活動は、地域の水防団が中心となり、災害協定業者などが協力して実施します。

迅速な水防活動を行うためにも、平時から訓練や危険箇所の把握などの意見交換を行い、災害に備えることがとても重要です。



インターンシップ生(就業体験実習生)が来ました！

今年も大学生の就業体験実習の受け入れを行いました。8/25 から 2 週間の就業体験実習では、工事の現場見学を中心に北海道開発局ではどのような仕事に携わっているのか体験してもらいました。

職場での体験を通じて仕事に対する理解を深め、学習意欲につながるよう、これからもインターンシップを実施していきます。

実習者の感想(北海道科学大学3年生)

就職というものが身近になってきたということで、インターンシップを通して自分の興味がある水辺環境の保全や災害における防災対策について深く知りたいと思い参加させて頂きました。大学での勉強だけではなく実際に社会で働くという経験が今後の進路や就職活動にとって良い方針になると考えております。

これからの学業において意味のある一日になるよう努めて参ります。



現場見学で説明を受ける実習生



インターンシップ報告会

お問い合わせ先

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 岩見沢河川事務所 計画課
〒068-0007 岩見沢市7条東9丁目3番1号 TEL : 0126 (23) 9555



国土交通省